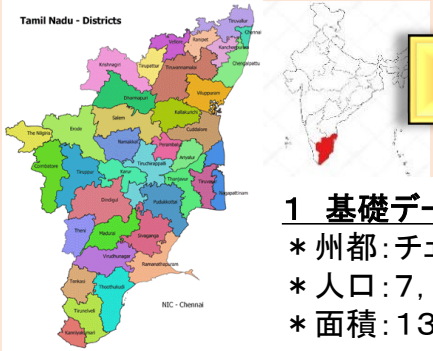

タミル・ナド州概要

2025年12月
在チェンナイ総領事館

1　基礎データ

＊州都：チェンナイ（1996年にマドラスから改称）
＊人口：7，640万2000人（2021年推計）
＊面積：13万58㎢（県（District）：38）

＊識字率：80．09％（男性：86．77％、女性：73．44％）（2011年）
＊宗教別人口比率：ヒンドゥー教；87．58％、イスラム教；5．86％、キリスト教；6．12％（2011年）
＊主要言語：タミル語

2　政治

（1）州政府
＊州知事：R.N. ラビ（R.N. Ravi）（2021年9月～）
＊州首相：M.K. スターリン（M.K.Stalin）（DMK）（2021年5月～）

（2）州議会：一院制（任期5年、234議席）（2026年4月任期満了）
＊与党：ドラビダ進歩連盟（DMK）129
コングレス（INC）18　など
＊野党：全印ドラビダ進歩連盟（AIADMK）66
インド人民党（BJP）4　など

スターリン州首相

（3）概況
2021年4月の州議会議員選挙で、故カルナーニディ元州首相の後継となった息子スターリン元副州首相率いる野党DMKが勝利し、10年ぶりに政権の座を獲得。それまで与党であったAIADMKは、2016年12月に死去したジャヤラリタ元州首相を引き継ぐ明確なリーダーを示せず、また州民の反現職感情と相まって大敗。
現DMK政権はその後の地方選挙や2024年の連邦下院総選挙でも勝利。スターリン州首相のリーダーシップの下、手堅い政策実施、政権運営を行っている。2026年4月にも州議会選挙が実施予定。

3　経済

（1）主要指標
＊名目州内総生産（GSDP）：31兆185億ルピー（2024年度）
※州別で第2位
＊1人当たり所得：36万1619ルピー（2024年度）
＊実質GSDP前年度比成長率：15．98％（2024年度）
←13．34％（2023年度）

（2）特徴
比較的良好な港湾等インフラ・立地条件及び豊富で比較的質の高い労働力に支えられ、経済規模は南部諸州最大。
主要産業は、自動車・自動車部品、電子機器、IT、繊維、化学、製薬など。動車部品生産高はインド全体の42％を占める（2024年度）。工場数は52，614と州別で最多（2024年度）。「インドのデトロイト」とも呼ばれ、州政府はあらゆるセクターの投資誘致に積極的に取り組んでいる。
産業構成比は第一次産業10％、第二次産業38％、第三次産業52％（2024年度）。前年と比較すると第一産業が3％減した一方で、第二次産業が4％増加し、製造業が拡大傾向にある。

（3）日系企業の動向
チェンナイ及びその近郊を中心に多数の日系企業が進出（拠点数：583（2024年10月時点））。
チェンナイ日本商工会登録企業数は216社（2025年11月現在）。日系工業団地は3件（ワンハブ、マヒンドラ、双日マザーサン）。主な進出企業は、日産自動車、ヤマハ発動機、東芝、コマツ、味の素、三井物産、三菱商事、住友商事、双日、豊田通商、三菱UFJ銀行、みずほ銀行、三井住友銀行、商船三井など。

4　在留邦人

＊在留邦人数：805人（うちチェンナイ711人）（2025年10月）
＊チェンナイ日本人会：会員数577人（2025年10月）